令和7年度豊田市市民活動促進委員会記録

日 時	令和7年6月25日（水） 午後6時30分～午後8時15分
場 所	とよた市民活動センター
出席者	<p>●委員（敬称略、会長・副会長以外50音順）鬼木利瑛（会長）、有我都（副会長）、秋山聖、伊東浄江、岩田雅子、亀井祥子、鈴木萌芽、谷口功、都築朗、戸田友介、長谷川和哉、三島知斗世 以上12名</p> <p>●事務局 地域活躍部 部長 青木 地域交流課 課長兼とよた市民活動センター所長 杉浦 とよた市民活動センター 近藤、大澤</p>
傍聴者	なし
欠席者	鈴木友喬

1 開会

- (1) 委嘱状伝達及び委員自己紹介
- (2) 諮問及び市長あいさつ

2 議事

- (1) 次期市民活動促進計画について（協議）

事務局説明を行った後に議論を行いました。

A 委員	<p>今回、計画から指針に大きく変わるタイミングで、指針と計画どちらも物事を進めるには本当に重要だなと思っておりますが、その性質や役割というのは、やっぱり大きく違います。</p> <p>指針は、私自身の解釈でいきますと、市民団体、企業などの皆にとって社会に良いことが循環していくようなことを実現していくための大事な羅針盤になっていくのではないかと思います。</p> <p>冒頭の自己紹介のときにG委員から誰のための指針なのか、誰のための計画なのか、こういったことを大事にした上で大きなこの指針、すなわち羅針盤を見据えて皆さんと議論をしていきたいと思っておりますので皆さんもそれぞれのお立場でお考えを自由にお聞かせいただきたいと思います。</p> <p>まず、継続委員からお話をお伺いできればなと思っておりますが、B委員、いかがでしょうか。</p>
B 委員	<p>第9期の委員会内では、確かにある程度の枠組や、話し合うべきことが決まっている中で、私達が集まって、何かを作り上げるという感じが、そこまではないと感じていました。これから形を変えながら、我々の考えが、もう少しストレートに何か響くようなものにどんどん変わっていければいいかなと感じました。すごく期待はしております。</p>

A 委員	<p>市民活動団体を率いている者という立場の中でもこの場が活動にもしっかり反映できる形は期待できるというところですね。市民活動団体の中で小さくまとまってしまうことも往々にしてあると思うのですが、もう少し開かれ、いろんなところと繋がる内容が含まれてやりやすくなれば、活動もしやすくなると思います。では、企業の立場ということでC委員お願いします。</p>
C 委員	<p>今説明を聞きまして、審議主体から運営主体と書いてあるので、今までは受身と言いますか、何か与えられたことに対してどうするっていう話だけでしたが、これからはここでいろんなアイデアを出して、何か形にしていく流れかなと理解しました。</p> <p>そうなると、こういうことを本気でやろうと思うと、もう少し打ち合わせだとか、議論する頻度っていうのが今まで以上に必要であると思っていますし、これだけの皆さんがいるので、多分、いろんなアイデアが出てくるんじゃないかと思っています。今話を聞くと、ちょっと今までのやり方からガラッと変わるのかなっていうふうに思っていますので、自分も会社勤めしている立場から、思っていることもありますので、それがいいのか悪いのか、意見を出し合っていけば、きっとまた何か面白いことができるのかなと楽しみです。</p>
A 委員	<p>C委員の立場からすると、本日お配りいただいた活動情報誌を企業の中で社員に活動参加を呼びかけていただいているものが、この委員会を通して、アイデアを出し合って、また持ち帰って、企業の経営の中でも役に立てていただけるような循環になればいいなと思います。従業員の皆さんの社会活動の参考になる形で、お互いにシナジーがあるといいなと思いました。では、D委員いかがでしょうか？</p>
D 委員	<p>羅針盤という話もありましたが方向性を出していくという議論と、審議主体から運営主体に変更する議論は分けていくべきではないかと思いました。議論の性質から鑑みると、関わるメンバーの構成が分かる場合もあるかなというような感じがしました。審議主体から運営主体への転換議論で感じたことは、「祭り」だなと思いました。市民活動の祭りを毎年実行することを考えると、指針を策定する議論とは違うと思いました。あと、近しいもので、祭りと考えたときに、We Love とよたフェスタが思い浮かびまして、例えば、そういうものをみんなでやっていくみたいなことなのかなとイメージしました。</p>
A 委員	<p>「祭り」をもう少し具体的に説明お願いします。</p>
D 委員	<p>「祭り」は地域のお祭りで地域の人たちが毎年、大事に継続し、皆が参画するものです。それぞれが主体的に参画して、その祭りに向けて動き、祭りが終わった瞬間から次の準備をし始めて、次の年に</p>

	<p>向かっていくものです。そう考えると、実は、一年中祭りに関わっていきまして、当日だけを切り取ればイベントなのですが、そうではなくて年中祭りに向けて動いているので、言ってみれば豊田の未来を作っていく象徴的なものであると言えるのではないかと考えました。</p>
A 委員	<p>今の話は重要な部分と思って聞いておりました。計画から指針に変わっていくことと、委員会自体の存在がどうなっていくかという議論がもやっとなってしまうと良くないので、しっかりと今後議論していくべきであると改めて感じました。</p>
E 委員	<p>今の D 委員のお話にも通じるのですが、2つの議論が混在していると感じました。</p> <p>資料に記載されている“事業”とは、現状、計画に記載された各課の事業を指していると認識しましたが、事務局から回答をお願いいたします。</p>
事務局	<p>資料記載の図は、昨年度の委員会での議論を踏まえて示させて頂いたものです。今までは、行政が、市民活動団体や促進委員会の意見を聞きながら、市が運営をして、市が市民活動のサポートをしている構図でしたが、当初の事務局説明で述べさせていただいた通り、市がサポートするという構図はおこがましく、そもそも市民活動は共働で進めていく方が望ましい。行政は結局市民活動に対する理解が浅く、有効な手立てが打てていないので、一緒に運営を行う方が望ましい姿であると考えています。</p> <p>そうすると、現状の事業運営は市や指定管理者となっているけれども、市が指定管理者に委託し、指示を出し、指定管理者が運営する形ですが、市と指定管理者が委員会にも参画し、実際の現場を運営して行く形の方が、共働が進めていけるのではないかと考えます。</p> <p>ここで言う“事業”は行政だけの事業ではなくて、普段皆さん方が関わっているような事業も取り込んでいくことも想定しています。特に中間支援的な役割の中で、市民活動をサポートする事業を取り入れていけたらと思っています。ただ、皆さん方の意見を踏まえて考えるべきです。</p> <p>もう一点、運営に関しては、表現は難しいですが、この促進委員会が会社で言うところの役員会のような取締役会のイメージで、活動センターや他の市民活動を支援する役割を行う主体が参画する。更に、We Love とよたフェスタのようなものが年に 1 回の株主総会でみんなにビジョンを示し、評価を踏まえ、ビジョンを共有する場になることをイメージしました。</p> <p>今後、皆さんと議論していく中で詰めていければと思っています。</p>
A 委員	<p>だからこそ、資料に記載された事業というのは行政主体の指定管理を通じての事業だけではなくて、中間支援組織がサポートしている</p>

	<p>ような事業も含めて混在していくイメージということですね。よって、事業の中身は多種多様な事業があるというイメージでしょうか。E 委員、いかがですか。</p>
E 委員	<p>何となく方向性は理解できますが、取り込む部分で言えば、そのような仕組みがなく、市民活動センター自体がその役割は担っていて、ある程度情報とかもあると理解していますけれど、そこに全部の情報やそれぞれの団体の活動が集約しているわけではないですし、WE LOVE とよたフェスタで言えば、私達、参加団体目線ですわらせていただくと、何をやっているかわからないです。どういう立場で何を目的に参加していいのか分からないというようなところがあって、躊躇しながら参加してみたものの、やっぱりわからなくて、主体がないという印象を受けました。よって、自分たちは活動PR を目的で参加しましたが、本当はもう少し目的があって、そこに共感して参加することを、一緒に連れて行く外国ルーツの若者に伝えたい思いがあります。</p>
F 委員	<p>事務局の説明を聞いて少し方向性が見えたような気がしました。ここで指す事業というのは、市とセンターが器を用意するけれども、そこに多様な主体が関わって一緒にやってくというイメージもよくわかりました。さっきも「祭り」という言葉が出ましたが、この委員会は多種多様な方々が集まってここで議論すれば良いものが出てくるとは思うのですが、やっぱり自分ごとで関わってもらうには、いろんな市民活動団体や組織が関わってもらうための仕掛けも必要だと感じました。</p> <p>ただ、ただ、E 委員がおっしゃったことと関わるかもしれませんが、「祭り」として、毎年同じようにやっているのと、よくわからなくなってきました。好循環の話がありましたけれども、課題を可視化することやハブ機能が必要だ等、抱えている課題に対して、みんなで話し合っって何か形にしていくように、毎年テーマを立てて、それが一つずつ前進する状況をはっきりと感じるようになっていくことが良いのではないかと。それが何年か積み重なっていくと、好循環が生まれるようなところに持っていけるといいなと思います。一方で、委員会の回数も限られているので合宿ぐらいやらないとできないかなとか思います。</p>
A 委員	G 委員、お願いします。
G 委員	<p>資料掲載図である程度整理ができるかなと感じたことと、今の「祭り」の話で言うと、これは大きな転換点だと私は思っています。</p> <p>これは、合併した際に山間地域の区長さんたちが話をされていた中で、地区で行うお祭りで、これまで区長たちは行政がテントや椅子も並べ、交通整理もしていたけれども、合併によって区長たちの役割が 180 度変わったと聞きました。交通整理も全部自分たちで行</p>

	<p>い、テントや椅子も全て並べなきゃいけない状況で、コミュニティ会議と地域会議の建付けが変わったというようなことを言われていました。だから、それぐらい今回、委員会が審議主体から運営主体に変わっていくことは、豊田市の市民活動を実際にマネジメントしていく役割になっていく存在になるのであろうと考えます。</p> <p>その上で、行政は何をするのかというところが、抜けてしまわないようにしないと、あくまでも行政の計画として行政が市民活動をどう位置づけるのかといったようなことに関して、市民として意見を言わなければならない。今回、指針に変わっていく中で、今度は市民活動をより広くやっていくための方向性の羅針盤を示すことが大切だと思います。ベクトルが、市民活動の方に向くと思うのですが、各部署が出されていたような計画がどのようになっていき、市民活動との接点はどうなっていくのかが気になるところです。ただ、今回、計画ではなく指針にすることによって、行政にとって何がいいかということとずっと私も考えていく中で、やっぱり市民活動センターが計画を作っていると、市民活動は、この課がやることですよというふうに、センターのみが行うということになり、行政にとってそれぞれの課は自分事になっていかないということが考えられます。今後指針として出すことによって、各課がそれぞれの部署にとっての市民活動計画をきちんと示すことによって、この計画を指針に変えたことに意味があると思って聞いていました。行政としては、大変ではありますけれども、これまで計画として毎回いろいろと進捗状況を出していて、もう一步深める形で各課が市民活動にどう位置づけているのかということと、きちんと進捗も含めて確認する仕組みを私は残しておいた方がいいかなと思いました。</p>
A 委員	<p>確かにそうですね。F 委員が言ってくださった時代がどんどん変わっていく中で、毎年テーマをちゃんと置く中で、指針に基づいてテーマがあり、私達がしっかり自分事として捉えて運営していく。それから、G 委員がおっしゃっていただいたように、指針があるということは、要するに、市民活動センターだけではなくて、市全体で指針に従って、どういう役割を果たしていくのかということは考えていくことができたなら、本当に素晴らしい形になると考えます。横展開していく仕組みを考えていくことは難しいですけども、皆さんと一緒に議論していくのは望ましいと思いました。では、新しい委員にも意見をお伺いしたいので、H 委員はいかがですか。</p>
H 委員	<p>私は学生と関わる機会が多いのですが、社会問題に興味ある学生は多いという印象があります。でも、実際自分が何をやりたいかということが決まらず、一步踏み出すことに不安を感じている学生が多いので、ハードルが低く参加できるきっかけがもっと増えていくと嬉しいなと思っています。</p>

A 委員	やはり、学生などの若い世代の人たちが、主体的に活動していけるような指針や運営であることは大事だと思いました。I 委員はいかがでしょう？
I 委員	質問をさせていただくと、今までは委員会から意見を聞いて、市が指定管理者と事業をしていたという流れから、今後は委員会も一緒に入り込んで事業をやっていきたいと思いますという話でしょうか？
事務局	おそらく、事業を一緒にやっていくとなると負担が大きいとされていて、そこまでは考えていなかったです。 これはあくまで事務局の現時点での考えで皆さんの考え次第で変わっていくと思うのですが、それよりも、こんな事業あったらいいのではないかと事業に意見を述べて頂くということかなと思っています。現状は、年に1回か2回ぐらい、何か問われたことを答えたりとか、報告を受けて感想を言ったりすることがメインですが、それよりも市民活動支援の事業そのものに対して意見を言ったり、来年はこういうテーマでこういうことに力を入れていったらいいのではないかとみたいな意見を言っていただくのかなと。主体的に何が必要でこんな事業やったらいいのではないかと考えていただくことを期待しています。 なぜなら、皆さんと一緒に考えていく方がより良い事業ができると思うからです。
I 委員	逆に言うとそれを今までされてなかったということに驚いています。当然、委員の方々の意見を聞いて、事業実施されていると思っていたので、転換期に委員会に参画できることはラッキーだったかなという気持ちになってきました。私自身に何か素晴らしい意見とか言える自信は正直ないけれど、いろんなこれまでの経験等を活かした発言を通して、事業実施に反映できるチャンスだと理解しています。
A 委員	では、J 委員からもご意見お願いいたします。
J 委員	活動センターと同じで、いろんなところと連携しながら行う立場としながらも、活動センターは市民活動、社協はボランティア活動の促進をやっていくというところがあって、他の市町でいうと市民活動ボランティアセンターという一体的にやっているところもあつたりする中で、どう共存共営していくかというところは考えるべきであると前々から思っています。なので、共存共栄のその効果的な取り組みは二者だけじゃなくて、他の中間支援の役割を果たす方々とも考えることができるのであれば、より良くなる取り組みができると考えますし、豊田の中の市民活動やボランティア活動がタッグを組んで進むということにもなるのかなと。
A 委員	確かに、タッグを組んでやっていくというのは、E 委員がおっしゃ

	<p>っていましたが、自分たちの団体、自分たちの側面だけでは解決が難しい状況において、多様な主体の皆さんとタッグを組んでいくってところが目指せるのであれば、本当にすごく意義のあることだなんていうふうに思いました。新規で K 委員にお願いできますでしょうか</p>
K 委員	<p>事前にこの資料を見せていただいたときに計画から指針になる部分と、審議主体から運営主体になるというところに何を求められていくのかが不透明でした。この委員会が運営主体になっていくことは私としては今の段階ではちょっと飲み込みが難しいところではあります。</p>
A 委員	<p>この運営という言葉は大変重みがあります。今後の議論の中で深めていきたいと思えます。</p>
D 委員	<p>先ほど、G 委員がおっしゃったように、今は時代の転換点にきており、計画だと上から落ちてくるイメージで体系的に進めているように見せている状況ですが、指針は現場で進めている人達が上ってくみたいなところかなと。よって、決めたものを上から降ろしてやっていくことではなくて、現場でやっている人たちがどんどん、毎年、上がってくるけれど、それをどのよう進めていくかを毎年考えていくのかなと思いました。</p>
G 委員	<p>現計画がより活動団体に寄り添ったものにできれば良かったなと感じました。ただ、行政計画が、なぜ市民と距離が遠いのかを考えた時に、理想はそこで暮らす人たちであり、活動団体の活動計画であり、人生のキャリアといったようなものに寄り添える行政計画だと、もっと市民と距離が近いと思えます。そう考えると、行政計画の限界と考える反面、地域福祉活動計画は、社協を中心に、それぞれのボランティア団体や施設に合った形で計画ができていますので、そのような計画だったら良かったなと。ただ、実際は難しい中で、一度、指針という形で、その指針が活動している人たちの息遣いに合うような指針であるならば、それをもって今度は市民がきちんと活動を展開していくことが望ましいと思えます。その上で、自分たち活動者としての活動計画というものができればいいなと思えますし、一方で、行政は行政として市民活動をどう進めるかを行政としての計画を定め、市民活動者としての活動計画と、両方で認識した上で展開できていくことが必要かなと思えます。行政の一委員会である促進委員会の位置づけを変えることは難しいと思いつつも、指針を機に変えていくのかを議論すべきであると思いました。</p>
A 委員	<p>どちらかという希望を持てる内容であると思えますので、これからもしっかり議論していきながら進めていければと思えます。</p>

(2) 令和 6 年度における市民活動促進計画進捗状況について (報告)

事務局から報告させていただきました。時間が限られていたため、委員会内での質疑応答は省略させていただきました。

(3) 総括

A 委員	長年市民活動関わっていただいたという立場で総括をお願いします。
L 委員	<p>私の中では共働という言葉が、自分の中ですごく響いていて、行政、市民、市民活動団体、中間支援組織等の多様な主体が、同じ課題や目標に向かってお互いの良さを出し合って、課題や目標を解決したり、成し遂げていけるといいのかなと思いました。</p> <p>私自身も豊田市との共働事業で活動していて、伴走支援という言葉をよく使いますが、伴走支援というよりは、「共働」です。</p> <p>行政は行政でやれることがあってやれないこともあるし、市民ではできることもあるし、できないこともあるという折り合いをつけながら、一つの目標に向かっていくことで、やっぱり市民にとって良い方向に向かっていくということを思っていますので、やはりどっちがどっちというよりも、こういった二つの力だけではなくて、多様な主体が繋がりあって、一つの目指すものを、解決したり、成し遂げていけるのがいいかなと考えますので、そうしたことを考えていける委員会が理想です。</p>

閉会

(1) 議事録確認のお願いをしました。